
喫茶店（カフェ）

織田一菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カフェ
喫茶店

【Nコード】

N1549N

【作者名】

織田一菜

【あらすじ】

ブログに掲載した、昔書いた悲恋系の詩です。

いつの間にか

二人の間に出来た溝は

二人だけでは埋められなくて

いつかまた会おうって

いつものカフェで話し合った

君は俺の前で泣く

俺だって本当は泣きたいんだ

なのに泣けないのは

ずっと我慢しなきゃなのは

君が泣き虫だったせい

強がりな君が隠そうとした

隠しきれなかった思いに

俺は答えられたの？

また次会ったら

教えてくれよ

今も耳に残る君の声

今も目に残る君の笑顔

今も鼻に残る君の香り

今も口に残る君の味

あの甘い味に代わるものを

俺はもう見つけられない

「まだ終わりじゃないよね」

「そんな顔しないでよ」

「また私に笑いかけてよ」

「どうして君が泣くの？」

君の涙声一つ一つが
俺にはとても重すぎて
ついには涙があふれ出す
このカフェを出れば
サヨナラだから

最後に君に

最高の笑顔で

笑いかけた

君はそれでも喜んでくれた
君も泣きながら笑ってくれた
君のその笑顔に僕はまた泣いた

あふれ出した君との思い出

現れたら消えては現れ

だんだん目の前の景色が歪む
君の前では泣かないと決めたのに
誓いも何もかも消えてなくなった
君と飲んだ最後のコーヒーは
今までで一番まずかった

カフェから出て俺は君を

いつもより強く抱きしめた

ホントはこの小さな手を

離したくなんてなかった

ホントはこの小さな体を

抱きしめ続けたかった

永遠なんかじゃなかったって

今になって分かった

手を離れた俺ら

また会えるはず

だからその日までサヨナラ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1549n/>

喫茶店（カフェ）

2010年10月8日14時31分発行